

## 川南町水道事業経営健全化計画

### 1 基本的事項

計 画 期 間	平成19年度～平成23年度
既存計画との関係	川南町集中改革プラン
基 本 方 針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全な水を安定的に持続して供給できる財政力を確保する。</li> <li>● 一般会計の基準外繰出金を削減する。</li> </ul>

### 2 繰上予定企業債

種 類	利率	当初借入金額	繰上償還額	繰上償還年月
財務省財政融資資金	7.15	222,300,000	35,221,003	平成20年3月
財務省財政融資資金	8.00	528,000,000	128,843,891	平成20年3月
小 計			164,064,894	
公営企業金融公庫	6.50	240,500,000	30,485,012	平成21年9月
合 計			194,549,906	

### 3 財務状況の分析

#### 財務上の特徴

給水人口一人当たりの配水管は、県平均7.29m/人に比べ13.93m/人と約2倍の延長があり県内2位となっている。そのため、設備工事・維持管理に他の団体と比べて費用が掛かっている。

有収率は、県平均87.4%に比べ78.0%と県内ワースト2位の状況にある。漏水対策は、10年前より漏水調査業者に委託し改善はしているが、県平均に遠く及ばない状況にある。

設備利用率が県内で最も高く、ポンプ設備等に過剰な負荷がかかり、ポンプ設備の寿命が短くなっている。

このようなことから、水道料金を10m<sup>3</sup>あたりでは、県内で一番高く設定している。

#### 経営課題

- ア 有収率 有収率が低いために実際に、必要な水量より多くの配水を行うことになり、経営を圧迫している。
- イ ポンプの更新 施設利用効率が高いために、取水ポンプ、送水ポンプに過剰な負担がかかり耐用年数に満たないポンプを前倒しで更新している。
- ウ 企業債 本町は、広大な範囲に家屋が点在し、配水には効率の悪い立地条件である。そのため企業債を財源として、水道事業開始以来大規模な設備工事（配水管布設等）を行ってきた。結果として企業債償還が経営を圧迫している。
- エ 基準外繰出 ウの企業債利息支払の財源として、一般会計から基準外繰出を行ってきた。本来水道事業は、独立採算が原則とされている。

## 4 今後の経営収支見通し

収益的収支、資本的収支及び他会計繰入金の見通しは、別紙資料のとおり。

### 前提条件

#### ア 料金設定の考え方、料金収入見込み

本町は、10 m<sup>3</sup>あたりでは、県内で一番高く設定しているため、これ以上の料金引き上げは困難な状況にある。料金収入は急激な増減はないと思われる。収納率は、徹底した滞納整理（給水停止等）を行っており平成 18 年度末時点で 98.2%である。今後も徹底した滞納整理を行う。

#### イ 他会計繰入金の見込み

企業債利息に充てるため、一般会計から繰入を行ってきたが償還が進んだことや、繰上償還を行うことにより企業債利息が減少してきていることから、段階的に繰入額を削減する。

#### ウ 大規模投資の有無等

計画期間の平成 19 年度～平成 23 年度には、大規模投資の計画はないものとする。

## 5 経営健全化に関する施策

行政推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減

#### ア 地方公務員の職員数の純減の状況

本町集中改革プランによると平成 22 年度までに、町全体で行政推進法の 4.6%減を大きく上回る 11.2%（23 名減）を目標としている。企業職員（水道課）は、集中改革プランに先駆けて、平成 16 年度に 7 名から 6 名へ 1 名（14.3%減）減らしている。

#### イ 給与のあり方

平成 20 年度より特殊勤務手当の廃止

物件費の削減、民間委託の推進

#### ア 維持管理費等の縮減、その他経営効果に向けた取組

本町の水道事業の課題は、配水管延長の長さに起因するもので、有収率が低いことや、企業債が多額なこともそのことにより起こっている。老朽管の布施替、漏水調査により有収率を向上させ、動力費等の経費削減、施設利用率を低下させポンプ施設の更新を長くすることを目指す。

#### イ 民間委託の推進等

現在、メーター検針、電気保安、休日の施設点検、清掃、水質検査等を委託しているが、これを包括的に委託し業務の安定、経費の削減を目指す。